

【ねがいはましては】

令和5年6月15日

KYOWA SCHOOL

第393号

「学習・覚悟・無常」

私の定期購読物に PHP という月刊誌があります。パナソニックの松下幸之助さんが創始者になります。今回ご紹介するのは、なんと902号・・・年間12回だとすると70年以上も続いています。

その中に矢作直樹（やはぎなおき）さんのことが載っていました。矢作さんのお仕事は「東京大学医学部付属病院救急部・集中治療部部長」なんとも長い肩書です。7年ほど前に退職されていますが、このようなお仕事をされながら身につけられた信条が「学習」「覚悟」「無常」という3つだそうです。常に命と向かい合わせのお仕事をされる中で生まれた信条ですから、私には身も心も引き締まるものとして映った次第です。

矢作さんの言うところの

【学習】→「自分の身に起こることはすべて学びであるという謙虚な姿勢でいること」

【覚悟】→「何があっても『そういうものだ』と受け入れて対処すること」

【無常】→「日常はつねに変化していて、昨日や今日と同じ明日が来るとはかぎらないと心得ること」

学習といえば教育現場の勉強のこととイメージされてしまいがちなのですが、矢作さんの言われる学習には「謙虚」という二文字が表れます。私の中に強くインプットされた語彙になりました。自分の身に起こることをすべて学びとして受け止める謙虚さです。つまり自身や家族のケガ・病氣・死、そして子であるなら、テストや体育での測定結果など、その結果を謙虚に受け止めること。すると感情より先に「さて、どうするか・・・」というこれからの自分自身の在り方を考えさせられるはず。なるほどと感じました。

覚悟です。どのような結果が出ようとも、すべてを自分自身のところで、からだで受け止めようとするのです。受け止めた時、そこには感情は存在せず、さて今後はどうあるべきかと冷静に今後を考え始めるはず。

無常・・・有名な古典文学「平家物語」に「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり・・・」とありますが、その中の諸行無常「世のすべてのものは、移り変わり、また生まれては消滅する運命を繰り返す、永遠に変わらないものはない」ということ。人生は、はかなく虚（むな）しいものであるということ。

「いつ、何が起こるか分からない。のんびりと『明日』やればいいやなどとは思うべからず。」といったところなのでしょう。ここから感じることは、今を精一杯に生きること。あーだこうだと、思い悩んでいる暇があるくらいなら、まず歩いてみましょう。

矢作さんの肩書からわかることは、1秒たりとも判断を遅らせることはできないお仕事だということ。そして的確な判断に加えて支持を行う。その1秒で病院へ来られた患者さんの生命が決まってしまうこと。ここで見えてきたことは、「学習・覚悟・無常」の3つにすべて共通したものが「感情が存在しない」ということです。

子どもたちを目の前にすれば、最も身近なものとして「学習」が挙げられるでしょう。矢作さんの言われる「学習」を子どもたちが日常経験している「学習」にあてはめると、「学びの中に感情はいらないよ、合っても間違えても、その結果を冷静に受け止めて次への糧とするべきです。」と、聞こえてきそうです。

そうなんです。感情はいらない・・・さて、学習の結果を判断すべく「テスト」の存在です。結果が出て即座に感情丸出しの方々がいっぱいいます。子はその感情を恐れるあまりに、常に「どうしよう、どうしよう」と、不安の中に追い込まれていきます。

学習に感情は必要ありません。「そうか、そうだったんだ。じゃー、こんどはこうすればいいんだ」「じぶんのこんなところが、このまちがえの原因になっていたんだ」「次は今までより、もっと落ち着いて取り組もう」

そんな独り言を傍らでそっと見守る方がいっぱいいます。どのような結果を子が持ってきて、けっして感情を出さずにニコニコと見守る方が傍らにいらっしゃいます。

私はテストという行為には基本的に反対です。しかし、このような光景が日常である家庭があるとするならば、テストに反対の意をあらわすことはありません。あくまでも自分を知るための「テスト」です。他人と比較するための「テスト」ではありません。これからを正すための「テスト」です。

まず初めに「テスト」とはこのような目的があるんだということの子らに、そしてその子たちの傍らに座っている方々に周知していただく必要があると思います。けっして「感情」など存在しないということ。

さて、矢作さんの今回の文章のエンディングです。

朝、目が覚めたことに感謝、息をしていることに感謝、ごはんを食べられることに感謝・・・目の前のことに感謝していると自然と今に幸せを感じ、楽しめるようになります。少なくとも私はこれまでそうしてきましたし、これからもそう生きていくつもりです。

「学習」「覚悟」「無常」・・・今、思い浮かべている古典があります。鴨長明さんの方丈記です。「行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず・・・」